

# 池田古墳 発掘調査 現地説明会資料

平成21年12月5日(土)  
朝来市教育委員会  
埋蔵文化財センター

## 1、はじめに

市内和田山町平野にある池田古墳は、但馬の中で最も大きな前方後円墳で、兵庫県でも4番目の規模を有します。昭和46年(1971)の調査で、葺き石・埴輪・周濠を備え持つ古墳であることが確かめられました。朝来市教育委員会では、古墳の大きさや形などの基礎データを得るために、平成18年度から国庫補助事業として発掘調査を実施しています。

## 2、これまでの調査

【朝来市の調査】これまで古墳の後円部側を調査し、東側と西側において古墳の墳丘基部を示す葺き石と造り出し、第1段めテラスの埴輪列を確認しました。造り出しは古墳から飛び出た部分のことで、祭祀をおこなう場所と言われています。出土した埴輪の中に、但馬地域では初めての鳥形埴輪や復元すると1mを越える家形埴輪などがあります。

【兵庫県立考古博物館の調査】平成20・21年度の調査では、古墳から周濠に伸びる渡土堤(わたりどて)が確認され、古墳の両側につくられた造り出しが明らかになりました。特に造り出しは東側と西側とでは、大きくようすが異なっており、東側は西側より少し大きく水鳥形埴輪が14体出土したのに対し、西側では水鳥形埴輪は1体も出土していませんが、ミニチュア土器が出土しているというように、位置によって造り出しの役割が違っていたと考えられます。また、3段め葺き石が存在し、3段築成であることは確認されました。

## 3、調査の概要

前方部の東側に2ヶ所の調査区を設定して調査を実施しました。その結果、墳丘基部は確認できませんでしたが、古墳の盛土と前方部側1段めの葺き石の一部と、周濠外側の位置を確認することができました。

【1 トレンチ】石垣をはさんで下側(北東側、周濠側)に設定したトレンチです。

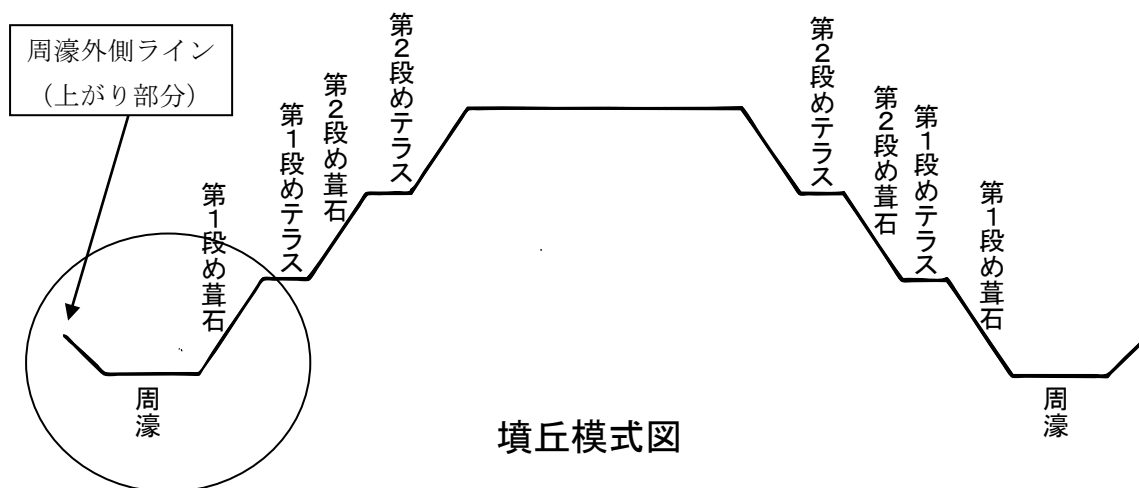
- ・ 調査区の東側で周濠外側ライン(上がり部分)を確認しました。土層からは周濠の外側に盛り土が施された状況が見て取れました。外堤と呼ばれるものと考えています。
- ・ 西側では墳丘基部が確認されませんでした。現在石垣が積まれている場所に墳丘基部が存在する可能性が高いと考えています。

【2 トレンチ】石垣をはさんで上側(南西側、墳丘側)に設定したトレンチです。

- ・ 古墳の墳丘盛土を検出することができました。盛土層は東側にかけて徐々に下がっている様子が見て取れます。位置から考えると1段めの斜面と思われます。
- ・ 調査区の北側でわずかに置かれた状態で石を確認しています。それが盛土の直上に存

在することから、1段めの葺石の一部と考えられます。

【出土した遺物】今回の調査で出土した遺物は埴輪のみでした。種類としては円筒埴輪と朝顔形埴輪だけで、形象埴輪は含まれていません。また、古墳がつくられたときと同じ位置を保つ埴輪は存在しませんでした。



※○で囲った部分が今回確認した箇所です。

#### 4、まとめ

今回の調査では、古墳の盛土と周濠外側の位置を確認することができました。出土した埴輪から、池田古墳がつくられた時期は5世紀初め頃、史跡茶すり山古墳よりも古いと考えられます。

このように得られたデータを集成して検討を重ねてくると、少しずつではありますが、池田古墳の姿が明らかになってきました。朝来市教育委員会の調査はあと2年続きます。古墳周辺も宅地がすすみ、調査できる場所も限られていますが、地元の皆さんにご理解とご協力を得て、データ収集を進めていきたいと思えます。



1 トレンチ全景

2 トレンチ全景 (南から。左側が後円部)

